

令和 3 年度 福岡市立 [原西小] 学校 学校評価計画書

Action		Plan	
学校の現状・実態		めざす学校像・子ども像・教員像	
<p>○学校生活の実態 全体的に児童は、落ち着いた学校生活を送っている。しかし行き渋り・不登校傾向の児童が福岡市全体の平均より多くみられる。挨拶や掃除といった基本的な生活習慣が定着している児童とそうでない児童が固定化している。</p> <p>○学力の実態 どの学年も国語科は全国と同程度ではあるが、毎年少しずつ伸びている。算数科も全国と同程度であるが、あまり伸びが見られない。</p> <p>授業においては、現在35分授業でもあることからか、集中して学習に取り組んでいるが、学力定着のための時間確保が難しい。</p>		<p>○めざす学校像:「一人ひとりの個性を認め、それにあつた教育をめざす学校」「秩序と規律のある学校」「安心・安全で通いたくなる学校」「きれいで美しく、落ち着いた環境の学校」</p> <p>○めざす子ども像:「すすんで学び、最後までやり抜く子ども」「自分のことも、他人のことも大切にする子ども」「明るく元気でたくましい子ども」</p> <p>○めざす教員像:「児童・保護者に愛情をもって寄り添い、信頼される教師」「豊かな人間性をもった、背中で教える教師」「常に自分を高めるために努力し、学ぶ教師」「組織雄一員としての責任をもち、お互いに協働し、高め合える教師」</p>	
		重点目標	指標(取組指標・成果指標)
		主体性を育む授業づくりを推進し、学力の向上を図る。	全学級で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業展開を意識し、日々の授業に反映させる。 3密を避ける活動の中でも、児童個人の活動場面や表現活動を多く取り入れた授業を展開する。 自学の内容を盛り込んだ家庭学習の90パーセント以上の実施をめざす。
			不登校児童数を前年度人数から2割減少させる。 ケース会議を開き、児童の実態を共通理解するとともに、取組方法について検討する。 不登校対応教員・SC・SSWの3者の連携により、不登校状況の改善を図る。 別室登校による段階的な教室復帰をめざす。
課題	今後の改善方策	不登校児童の減少を目指し、支援の充実を図る。	学期末アンケートで、挨拶や掃除を積極的にしていると肯定的な回答をする児童を7割以上にする。 早寝・早起き・朝ご飯の保護者啓発を行うとともに、アンケート調査により実態を分析し、今後の目標を立てる。
学習意欲の低下	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的に学ぼうとする授業の創造を図る。 ICTの積極的な活用を図る。 学習規律の徹底と家庭学習の定着を図る。 		遅刻児童を昨年度より減少させる。
行き渋り・不登校児童増加	<ul style="list-style-type: none"> 児童にとって、魅力的な授業や教育活動を行う。 個々の状況に合わせた支援をチーム学校で充実させる。 関係機関との連携を図る。 	基本的な生活習慣の確立を行う。	
基本的な生活習慣の乱れ	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な挨拶と掃除を徹底させる。 保護者の協力を得て、家庭での早寝・早起きを習慣化させることで、遅刻を減少させる。 		